

特別活動 全学年 生徒会活動

4月実施

学習項目 地区生徒会

指導目標

- ・今年度の自分の地区の連絡網や名簿を作成し、必要時に、すぐ活用できるようにさせる。
- ・現在の自分の地区の危険箇所・通学路マップ・避難場所を同じ地区のメンバーや担当職員と確認させ、登下校時の安全確保を意識させる。
- ・今年度の自分の地区のメンバーの顔や人員数を把握しておき、地区ごとに集合する際、人員が欠けていないかなどの異常を察知できるようにさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	各地区担当教室に分かれ、地区生徒会を始める。 メンバーの出席確認を行う。 メンバー・名簿・人員数に間違いがないか確認する。 地区長・副地区長・書記を決める。	地区会ファイル 各地区名簿 確認決定事項記入用紙
展開	地区連絡網を作成する。 危険箇所・通学路マップの見直し・作成を行う。 その他、ボランティアなど地区行事の確認などをする。	地区連絡網枠 地図・通学路マップ 確認決定事項記入用紙
まとめ	担当の話を聞く。	

事後指導 地区長は全てのプリントに決定事項を記入して地区会ファイルに綴じ、生徒会担当職員に提出をする。  
各地区担当職員で連絡網をコピーし、メンバーに配布する。

特別活動 全学年 学活 (2) - キ

6月実施

学習項目 防災についての意識調査

指導目標

- ・自然災害について、どれくらい自分が知識をもっているのか理解させ、危機意識を高めさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	防災クイズをする。	
展開	自然災害についてのDVDを見る。 意識調査をする。	DVD「津波から逃げる」
まとめ	担当の話を聞き、防災についての知識と備えが大切だということを知る。	

特別活動 全学年 生徒会活動

12月実施

学習項目 地区生徒会

指導目標 ・自分の地区の危険箇所を把握し、防災に対する意識を高めさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	地区のメンバーを確認する。	地区会ファイル 各地区名簿 確認決定事項記入用紙
展開	地区の通学路について確認する。 事前に写真を撮ってきているので、地図上に貼りながら、お互いに危険箇所を理解する。(安全マップ作成)	地区連絡網枠 地図・通学路マップ 確認決定事項記入用紙
まとめ	担当教師の話を聞く。	

事前に、生徒に自分たちの通学路を記入させ、危険箇所を写真に撮らせプリントアウトさせておく。  
危険箇所マップを作成したら、廊下に掲示する。

特別活動 1年 学活 (2) - キ

4月実施

学習項目 校内探検

指導目標

- ・ 校舎内の各教室や非常口・階段の場所等を把握し、災害時の避難経路を理解させる。
- ・ 消火器・担架・バケツなど防災用具の設置場所を把握し、災害時に活用できるようにさせる。
- ・ 職員室内の教職員に用事がある場合の出入り・応答の仕方を学び、学校生活で活かせるようにさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	学校内の探検を行うことを知る。 グループに分かれる。 担任の話（各教室への出入りの仕方とあいさつ・応答の仕方）を聞く。 グループで、各教室のバケツの位置や消火器の場所などのクイズに答え ていくことを知る。	教室名空欄校舎配置図  職員室出入りマニュアル クイズ用紙
展開	グループで校内探検を行う。 全体で解答を確認し、気づきや感想を発表し合う。	クイズ用紙 解答用紙
まとめ	個人の感想をワークシートに記入する。 担任の話（避難経路・防災用具の活用方法）を聞く。	ワークシート

特別活動 1年 学活 (2) - ウ・カ

11月実施

学習項目 ボランティア活動の意義の理解と参加

指導目標

- ・ 復興支援となるボランティアとは何かじっくり考えることで、社会の一員としての自覚と責任を  
果たす態度を養い、ボランティア活動の意義について理解させる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	被災地における真の支援となりうるボランティア活動とは何かを考える。	
展開	資料から支援ボランティアの困った行動から留意点を見つける。 班に分かれて意見を交換する。	資料:「RSA JAPAN の ブログ」
まとめ	私たちにできることを考える。 復興支援の映像を見る。	ユーチューブより「東北 地方太平洋沖のいい話」 の映像

特別活動 1年 学活 (2) - カ

12月実施

学習項目 「実際に自分たちにできることを実践する」

指導目標

- ・今生活している中で、ボランティア活動などができないかを考えさせる。
- ・ボランティア活動で、人の心の支えになれることを理解させる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	自分の知っているボランティア活動の種類を発表する。	
展開	被災地だけでなく、身近にできるボランティア活動について調べる。	・パソコン室で授業を行い、調べ学習を行う。
まとめ	ボランティア活動で感謝された方の手紙などを紹介し、助け合うことのすばらしさを理解する。 今からでもできるボランティア活動について自分なりに考える。	・集団で行ったり、イベントなどに参加したりして行うものがボランティア活動ではなく、人のために行動できることが大事であることを伝える。

事後指導として、生徒会活動などで行っているボランティア活動についても真剣に考えさせる。

特別活動 2年 学活 (2) - キ

11月実施

学習項目 「自分の命は自分で守ろう」津波のメカニズムを知り、巨大なエネルギーについて認識しよう。

指導目標 ・自然災害についてのメカニズムを知り、どのような場所でどのような災害が起こる可能性があるかを考えさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	津波の映像を見る。	・パソコン室で授業をする。
展開	津波のメカニズムを知り、津波のエネルギーの凄さを知る。  自然災害について鷹島や九州で起こりそうな自然災害について考える。  パソコンを使い、自然災害について調べる。	・気象庁から出ている、津波実験の様子を見せ、波と津波の違いをきちんと理解させる。 ・個人で調べ、ワークシートにまとめる。
まとめ	さまざまな自然災害について学び、人間の力では勝てない自然の力であることを理解する。また、そのような災害の被害を最小限に抑えるような生活をしなければならないことを理解する。	

特別活動 2年 学活 (2) - キ

11月実施

学習項目 「自分の命は自分で守ろう」津波について知り、自らが動く方法を見つけよう。

指導目標 ・安全に避難する方法や情報の入手手段などを理解させる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	津波に遭遇した場合、安全に避難するプロセスを考える。	・DVD「津波・TUNAMI」スマトラ沖の津波の映画の一部を見せる。
展開	安全に避難するまでの流れを知る。 1 情報の入手について知る。 2 避難行動開始の判断について資料から考える。 3 避難経路の選択について考える。	・DVD「海上保安官が見た巨大津波と東日本大震災復興支援」を一部見せる。
まとめ	安全に避難するまでのプロセスと、避難する際の注意点を確認する。	

事後指導として、自分の家から避難する場合を考えさせ、プリントに記入させる。


特別活動 2年 学活 (2) - ウ・キ

12月実施

学習項目 「自分の命は自分で守ろう」災害後の暮らしと備えについて知ろう。

指導目標 ・災害後、被災地の方が、どのような困難な生活を送っているかを考えさせ、自分たちにできる災害の備えについて考えさせる。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	仮設住宅の写真を見る。3.11でどのくらいの仮設住宅が作られたかを知る。 	・仮設住宅の写真を準備する。
展開	仮設住宅の方の生活について、資料を見て考える。	・ワークシートを用意させ、仮設住宅での不便などを想像で書かせる。 ・ユーチューブの動画で、「仮設住宅の生活をする方の現状」を映した動画を見せる。
まとめ	今後、もし、このような災害が起きた場合を考え、自分たちが今できることや被害を最小限に抑えるために何ができるかを考える。	・ワークシートに家の配置図を書かせ、安全性を高めるためにできることを書かせる。

事後指導として、意識調査で、家庭で家具の固定など、取り組んだかどうかチェックする。



特別活動  
学習項目  
指導目標

3年 学活 (2) - キ 11月実施

世界の自然災害

・自然災害について世界に目を向けて考えさせて、被害を受けた国に対して、世界中の人が支援をしている実態を紹介し、助け合っていく生き方を理解させる。

展開

過程	主な学習活動	備考
<p>導入</p>	<p>資料を見る。</p> <p>1. 東日本大震災 (2011年、日本)</p>  <p>また記憶に新しい昨年の3月11日に起きた東日本大震災。震災死者は2012年1月6日現在で1万8844人。家族に助けがなかった行方不明者は3480人となっている。被害の影響は津波だけに止まらず、これを契機に福島第一原子力発電所の事故へと繋がった。震災進行の過程によると、東日本大震災による経済的な損失が最大で4,850億ドル(日本円にしておよそ19兆円)であるとされ、完全な再建には5年かかるとされた。</p> <p>2. 阪神・淡路大震災 (1995年、日本)</p>  <p>平成7年、兵庫県南東部で起きた大規模な地震。震災死者数は6,434名で、55.9%にあたる約3000人は本震で被災し、震源の下敷きになって尊死したとされる。これをきっかけに、日本では耐震性を考慮に入れて建築基準法が改正された。日本経済へのインパクトとしては、阪神・淡路大震災の被害が約10兆円だった。西暦10月1日に実施された震災後初の国勢調査では神戸市の人口が142万2792人となり、震災による市内の死亡者数4571人を大幅に超える、約10万人もの人口が減少した。</p> <p>3. ハリケーンカトリナ (2005年、アメリカ合衆国)</p>  <p>2005年8月にアメリカ合衆国東南部を襲った大嵐のハリケーン。ハリケーンの強さを表すシンプソンスケールで、最大時に最高のカテゴリー5、ルイジアナ州上陸時にカテゴリー3を記録した。また、約2万5,500人が犠牲になった。ハリケーンカトリナは、ハリケーン発生以来、最も被害を受けたハリケーンである。経済的損失だけでも108 billion (約12兆円)にのぼる。</p> <p>4. ノースリッジ地震 (1994年、アメリカ合衆国)</p>  <p>半国史上最も経済的被害の大きい地震であるノースリッジ地震は、1994年1月17日にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタモニカ郡ノースリッジ地方で発生したものだ。モーメントマグニチュード6.7だが、震源は14.6キロと、極めて浅かった。被害を受けた人は、死者57名、負傷者 約5,400人、入居4,487室にのぼる。この地震から約1年間に、日本では阪神・淡路大震災が起きた。</p> <p>5. 四川大地震 (2008年、中国)</p>  <p>中国歴史史上最悪の自然災害と言え、四川大地震である。この地震による死者は6万9197人、負傷者は287万4178人によった。地震によって道路や電力・水道・通信などライフラインが寸断された。地震発生当時のマグニチュードは7.3〜7.9で、いずれも地下型地震(プレートの地震)としては世界最大の規模だった。多くの観光客が訪れる地味で賑わったため、大衆射などにも大きな被害を受けた。</p>	<p>・世界中で被害の大きかった自然災害について、いくつか紹介する。</p> <p>インターネットより画像を印刷する。</p>
<p>展開</p>	<p>映像を見て、被害の大きさを考える。</p> <p>どのような支援ができるか自分の考えを記入する。</p> <p>災害が起きたとき、世界中からどのような支援をしてもらったか教師の説明を聞く。</p> <p>身近にできるボランティア活動や社会生活に浸透してきているボランティア活動について考える。</p>	<p>・ワークシートに自分の考えを記入させる。</p> <p>・「ハリケーンカトリナ」「ノースリッジ地震」などの動画を見せる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>ボランティアの意味について話を聞く。</p>	<p>教師による説話</p>

特別活動 3年 学活 (2) - カ

11月実施

学習項目 ボランティア活動について、世界に目を向けよう。

指導目標 ・世界中のボランティア活動について目を向け、その意義や思いを理解し、自分自身を振り返る。

展開

過程	主な学習活動	備考
導入	国際的に行われるボランティア活動について考える。	・パソコン室で授業をする。
展開	学校で行っている募金について詳しく調べる。 ボランティア活動に参加する方法などを調べる。 ユニセフなどのボランティア活動について調べ学習をする。	・毎年行っている募金活動などに関心を持たせる。
まとめ	国境を越えて、人助けをすることについて考える。自分が今まで受けた手助けで嬉しかったことなどを記入し発表する。	

事後指導として、思いを行動に移せるように、「世のため・人のために」活動することに力を入れる。